

合併記念式典市長式辞

菊の香がふくよかと薫る今日の佳き日に、鹿児島市と吉田町、桜島町、喜入町、松元町、郡山町の一市五町が合併し、新生鹿児島市が力強い第一歩を踏み出すことになりました。

本日は新しい鹿児島市の門出にあたり、合併記念式典を開催いたしましたところ、総務事務次官、鹿児島県知事、地元選出国會議員、姉妹・友好都市の皆様のご来臨をいただき、衷心から感謝申しあげます。

特に香山総務事務次官には、公務極めてご繁忙の折にも拘りませず、遠路お越しいたゞき、心から厚く御礼申しあげます。

また、このたびの合併に至るまで、各面からご協力とご尽力を賜りました皆様にも、多数ご出席をいただき、かくも盛大な合併記念式典を挙行できますことは、無上の喜びであります。

はじめに、このたびの合併を鹿児島市民あげて祝福し、将来にわたる限りない発展を誓い合いたいと存じます。

先程は、旧一市五町の子供たちが心を合わせて、新生鹿児島市の幕明けにふさわしい元気一杯の歌声を披露してくれ、あらためて感動と決意を新たにいたしました。

さて、今日、地方分権の推進が国をあげて進められております。

真の地方分権は、国・県・市町村が対等協調の立場に立って、国から地方に権限と税財源を可能な限り移譲することでありますが、地方自治体みずからも自己改革を行い、真の地方分権を担い得る行政能力と、自立した財政基盤を確立することが肝要であります。

このたびの私共の合併は、そのことを目指すものでありますが、私共は合併の目的と目標を常に直視し、本市の将来のあるべき姿をしっかりと見据える中で、未来にわたって市民の皆様にご合併してよかつたと高い評価をいただける、合併にしていきたいと考えております。

ところで、鹿児島地区の一市五町は、これまで隣接する自治体として相互に協調して、それぞれ発展してまいりましたが、今日ではその生活圏は完全に一体化しております。

私共は、この一体化した生活圏を共有する一市五町が合併することにより、分権時代の受皿としての行政能力と財政基盤を確立することにいたしました。

当鹿児島地区におきましては、平成十二年五月に「鹿児島地区市町村合併調査研究会」を設置し、次いで平成十五年一月二十四日に「鹿児島地区合併協議会」を設置して、合併についての調査研究や協議を真摯に進めてまいりました。

先程申し述べました、一市五町が共有する地域的・社会的な必然性に加え、関係者の熱意と積極的な取り組みにより、信頼の上に立った協議が順調に進められ、平成十六年三月三日に一市五町の首長による合併協定調印を行い、その後、それぞれの議会や県・国の手続きもすべて順調に進み、本日でたく合併の日を迎えることになりました。

この間の首長の皆様、議会の皆様、そして合併協議会委員の皆様をはじめ、関係の方々のご熱意と真摯なご努力に、心からの敬意を表します。

また、終始ご懇切なご指導を賜りました国・県に対しまして、衷心から感謝申しあげます。

さて、五町におかれては、それぞれの地域の将来にわたる発展を心から願って、長い歴史と伝統に輝く町制に幕を閉じる決断をされました。

私は、五町の皆様が、この厳しい決断をされてまで、合併に託された夢と期待に思いをいたし、これに応えるため、最大の努力を傾注していかなければならない責務を、強く感じております。

一方、鹿児島市においては、五十五万都市として力強く発展している中で、五町を温かく迎え入れることになり、これまでの鹿児島市に新しい息吹を与え、一回り大きな鹿児島市を創造することになりました。

合併後の鹿児島市においては、すべての地域の一体化を速やかに成し遂げ、今日の日をスタートに、地域と心の垣根をすべて無くし、渾然一体となって新生鹿児島市の躍進に向けて、総力を結集してまいりたいと存じます。

そして、市民の方々が鹿児島市に住むことを誇りにし、鹿児島市に限りない愛着を持っていただけるような、ふるさとを創造してまいりたいと思います。

そして、「日本の南の玄関に鹿児島市あり」という情報を、常に全国に向けて発信し続けられるよう、合併の効果を最大限に活かしてまいりたいと思います。

終わりに当たり、来賓の皆様、市民の皆様のこれまで以上のご指導、ご支援をお願い申しあげますとともに、ご列席の皆様の一層のご健勝とご活躍をご祈念申しあげて、私の式辞といたします。

平成十六年十一月一日

鹿児島市長 赤崎義則